京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年

本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢

月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)

廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲新聞欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久馬太

印刷人 松久神一郎

發行所 京城西署西小門通(電話六〇三) 京城新報社

鯨屋伊右衛門翁の鯨談(七)

●英米人の日本抹香漁場發見● 捕鯨志に據れば世界の抹香漁場中ジャパン、グラウンドと稱せらるゝ知名なる金華山沖漁場は英米兩國の航海者殆んど同時に之を發見したるものゝ如し即ち米國捕鯨船探漁の時期は今より八十二年前(千八百十九年)にして其前支那より布哇に渡航せる米國船長が航海中、日本沿岸に於て抹香鯨の大群を認め之を在米の友人に報知したるより同年十月二十六日米國捕鯨船マーズ號を米國ナンタッケット港より日本海に出漁せしめ二年五箇月半を經て二千四百二十五樽の抹香鯨油を積載歸港したりと又英國捕鯨船サイレン號は噸數五百噸乘組員三十六名にて同く八十二年前の八月三日英國を出帆し日本沿海に達し抹香鯨の大群に出遇ひ追獵して大に之を捕獲し二年八箇月を經て三百四十六噸即ち二千七百六十八樽の抹香鯨油を獲得して歸國したりコハ實に捕鯨史上に未曾有の豐獲なりしかば忽ち全歐洲に響き渡り米國の營業者迄をも震駭せしめ延て歐米捕鯨業者を驅て盛んに此の好漁場に遠征せしめ米國のみにても天保十四年には百隻、弘化三年には二百九十二隻、萬延年間には百隻を下らざる捕鯨船を此の方面に見に至れりといふ當年ペルリ提督の薪水要給の外交折衝も豈に其の故なしとせんや。

(二九)抹香鯨の逆襲 此鯨の齒は上の方は物を嚙むに役立たぬので、敵に向ふ時は必ず逆まに爲つて突掛けて來る一度私が乘つて居た米國船の短艇で此の鯨を捕獲した折り丁度小銃を用意して此の群に向つて行くと、大きな奴が僅か二間計り先に現はれ下顎が上の方に爲つてガブッと短艇を嚙碎かん計りの衣勢で遣つて來た、此時などは此方が素手であつたら最期、無論口中に葬らるゝのであつたが、烈彈銃と銛とがあつた計りに、如何な抹香鯨も到底叶はずに私共に捕られた、是から採つた油が七十石、此內三分の一は頭から採れたのであつた。

(三〇)巨頭鯨 抹香鯨と體も同じ形のものゝ背色の黑い腹の色が白く頭に腦油を持つてゐるのが、ブラック、フィッシ即巨頭鯨と云つて、長一丈二三尺位のものがある、油は精製して精巧な器械用即ち懷中時計、柱時計、天文臺の時計等に用ゆる油として珍重されてゐる。

(三一)抹香鯨の龍涎香 此鯨に特有のものは腦油の外に何ほ貴重な龍涎香と云ふものがある、英國でアムバーグリス諾威でアンブラと稱へ抹香鯨が烏賊を食つた時、其腸を刺戟されて出來るものだと言傳へられて居る、鯨漁者が偶に水面に油の浮んだ中から桃色をした海綿見た樣なものを拾ふ事がある此の珍奇な物は抹香鯨から排泄した龍涎香だと云ふ米國の調べに依ると龍涎香は抹香鯨の腸中に偶ま見出さるゝ蠟の如き者で水產物中では眞珠、珊瑚鼈甲を除たら最も貴重であつて直打が一ヲンス(七匁五分)八十圓一匁十圓五十錢餘、純金の價値の二倍に當り昔から商品としてアラビア人にもアンバーと云つて却々尊ばれてゐたそうである昔の旅行家の日記に印度洋から南亞細亞海岸には多かつたもので、亞弗利加のモロッコの地方には家々に蓄へ置て客のあつた時、茶の中に混せ香を付けて進めるのが一番の御馳走とする習慣になつてゐたといふことである、千二百五十四年から千三百二十四年頃は亞弗利加のザンジバルが名高い產地で十七世紀頃から其產額も增して殊に太平洋日本海岸に多く和蘭人は世界到る所の各地に賣買して賣口も次第に擴まつてゐた、併し十八世紀頃迄は何から出來るものやら不明であつて、只泡の結晶とか洋中の茸である位に思ふてゐたが、今日では全く抹香鯨の肝臟から起る病氣の爲め出來るといふ事が稍明白になつて來た此物は牝牡共にあるが割合に牡の方から多く取れて居る

(三二)龍涎香の所在 は通常抹香鯨の肛門から二尺から六尺以內の處であるから肛門から之を探つて切れは丁度コークかゴムでも切る樣な感じがある、其体內から切り出した儘の時は始め柔軟な臭氣のある塊で重さ百二十匁から十八貫目迄あるそして此鯨の常食とする烏賊の嘴などが混つて居る事もあるが、外氣に曝されると次第に硬く成つて其重さは減り、黑色又は灰色若くは大理石の樣な斑點線紋入りの半透明な塊と成り、十分に乾上ると蜂蜜の樣な光澤が出て熱を加へると蠟の樣に軟かに成り針で突ても直ぐ貫る此の物の眞偽を見別るには熱した針を刺して油の出るのが良質としてある、昔は熱病神經病の藥とか寺では其儘香料に使つたものであるが、近來ではアルコール二升五合に龍涎香三十匁を混せ溶解して香料に使つて居る、近年の相場は一匁が二圓から八圓位である。

(三三)龍涎香收穫の不同 千八百八十三年ニユウ、ベッドフォルドの船長ゼームス、アールが濠洲ニュウジーランド東海岸で捕獲した抹香鯨は採油高九十樽で四千弗と、腸の中から出た龍涎香が七百八十封度(四百八十五斤)もあつたから、一頭の賣揚金が二萬五千弗(我約五萬圓)に上ぼつた、其後其船長は千頭以上の抹香鯨を捕獲したけれども龍涎香は終に手に入れる事が出來なかつたといふ事である

●社告

病統監曾禰子爵遂に掛冠して寺內陸相之れに更り山縣前遞相は新に副統監に親任せられ永く沈睡せし統監政治は茲に面目を一新し世上の景氣は將に活氣を帶びんとす、されば本社は兩統監更迭を紀念する爲め左の通り一大紀念號を發刊せんとす

統監更迭紀念號

▲紀念號發行日 來る六月廿五日

▲記事の內容 韓半島に關する名士の談論其他政治、經濟、人情、風俗、美文、短篇等最も趣味と實益に富める記事を網羅す

▲頁數と發行部數 約數十頁となし發行部數も平素に數倍し廣く江湖に配附せんとす

右の次第なれば當日の廣告は普通廣告に比し數倍の價値あるを信ず

尤も廣告締切り期日は六月二十三日を限りとす

六月 京城新報社

韓太子の御巡啓

韓國皇太子が本年夏期の暑中休暇を以て御見學のため中國地方に行啓あらせらるゝことは屢記の如くなるが太子には十三日を以て思召の旨を我 天皇陛下へ上奏御裁可を得させられたるを以て愈來七月十三日東京御發輿大坂驛より坂鶴線に御乘換の上舞鶴に直行御一泊の後宮津より天の橋立御巡覽更に但馬國なる有名の溫泉地城崎に行啓夫れより鳥取島根兩縣下を經て廣島に出で更に尾道御一泊線路大津に御直行琵琶湖遊覽の後馬場驛より汽車にて東京還啓のことに御治定相成りたるが往復日數は約二十日間の御豫定にして目下御發着時刻に就いては目下鐵道院と交涉中なりと

●木把橫暴と漂流木

鴨綠江の上流中江鎭附近に於ては清國木把の多數韓國領に渡り江岸に拾集堆積せる漂流木を橫奪し或は故意に流失せしむる等頗る橫暴の行動あるを以て我が憲兵隊にては之れが鎭壓に從事し近來は概ね鎭靜に歸したるを以て清國委員との間に漂流木の受渡を爲したるが其數舊漂流木一万四千五百四十九連新漂流木(本年四月三十日以後拾集のもの)一萬一千八百七十四連なりと

文苑

▲春畝公詩存拔萃

◎書懷(馬關作)

人生五十歲。詩酒宜爲娛。成事操豪勢。何論賢與愚。

俳句

●夏五句● 多田千春

飛退いて見れは小さき毛虫かな

打水や蜘蛛の隱れし石燈籠

長うなり短うなりて午睡かな

夕顔や川魚料る月あかり

泪ある尼が名殘や土用干

講談 越後傳吉

大岡政談 第二回 旭堂南陵講演

扨名主の後任になつたのがヤハリ井上と親類筋にあたる庄左衛門、左まで財產があるといふ譯ではないが、井上との親類筋舊家でございます、その庄左衛門が名主となる、例によつて二字帶刀御免城代といふ苗字が附きました、傳兵衛がこれを苦に病みまして終始身體が弱い丁度傳吉が十五の年に亡くなつてしまふた、跡へ殘つたのは一人の母、この時傳吉は未だ十五だが親思ひの働らき者であるからもう充分に間に合ふ、朝に星を頂いて起き、星を頂いてまた歸る、自分の田地はないから他人の田地を借て切々と稼いでゐる、水呑百姓にはなつたけれども世間の者は決して馬鹿にしない、田舎は家柄を貴ぶ習慣であるから道で會ふても「オイ傳吉なんといふ者はございません、皆が本家の小旦那々々といふ、或は井上の小旦那ともいはれて居る、丁度傳吉が十九の年たよしが病ひ附ました働らいて眠さへあると母の枕許へ詰切ての看病、もう到底六ツかしいといふ時に母は傳吉を枕許へ呼んで よし「傳吉やれ前がこんなに孝行にしてくれるから、妾は今死んでも別に心殘りはないが、只た一つれ前に頼んで置きたいことがあるのぢや 傳「ハイれ母さん心細いことをいつて下さるな、もう一度快うなつて貰ひたうございます よし「イヤ／＼今度は到底妾は六ツかしいと思ふ、それに就てれ前に頼んで置くのは妾に姉がある、れ前のためには一人の伯母樣、聞いては居るぢやらうが、村へ這入た無頼者と二百兩の金を持て驅落をなされた、相手の男がようないで難儀をして居るぢやらうと只た一人の姉だけにそればつかりが心掛り妾が死んだ跡で何所に何うして居るか分らないが、万一れ前に音信があつたら妾だと思ふて相談相手になつてやつて下され、モウ年齡も老てゐやうから以前のやうなことはあるまいから傳吉頼むから 傳「ハイれ母さん、ようございます私のためには一人の伯母さん、何にかしてれ話し相手になるどころか、れ母さまだと思つて孝行しますから安心をして下さい」これが遺言になつたか到頭れよしは亡くなつてしまひました、葬式も濟んでしまひ、跡で傳吉一生懸命に一人で働らくのは、切て井上の家を十分の一にでもして、置きたいと云ふ積もり、サア村の衆は 甲「そうだい井上の小旦那はヱライもんだの、感心な方だ、今あやつて零落てござるが、なんといつても代々名主の小旦那だ 乙「さうだ 甲「良い嫁樣周旋せにやアなんねへぞ 乙「あんでも、さうだのう獨身で御不自由だらうから」百姓代五人組の人々は何所其所の娘を嫁にとか誰某の妹を嫁にとか勸めてはくれますが、まだ女房持のが早うございますからといつて持たない、丁度二十二歲、よくこの在方であるのは水論、水の喧嘩はよく／＼あるもので、隣村と水論が起つて果は江戸表へ持出し、江戸でれ調べを受けるやうなことになりました、それについて万々入用の金もある、江戸へ金を二十兩送らねばならぬ、誰か村の者に持してやらにやならぬ百姓代の甚右衛門三右衛門等一同が 甲「誰に持してやるだい 乙「あんどいつても二十兩の大金だでのう、金といふものは人の心の變るものだ、可怪なことがあつちやアなんねへ、誰が宜からうの」大勢人はあるが扨此人なれば大丈夫といふ者は少ないもの、それを傳吉が聞て 傳「どうでがせうな、平生から私は皆樣の御厄介者、私で宜ければ私が持て行つて上げませうかな、れ村のためぢやから 甲「イヤ井上の小旦那、れ前樣に行つて貰つたらこんな安心なことはねへだが、今こそ斯うやつて零落てござつても以前は井上の小旦那だ金を持て行つて呉れろなんてれ前樣頼まやしねへ 傳「イヤさうでねへ、私等で勤まる役であればどうぞ私に吩附けて貰ひてゑもんですが村の爲に働いて見たうございますから 甲「あんなに云つて下さるから、それぢやア小旦那に頼まうかな 乙「さうして貰はう 甲「ちやア小旦那どうぞれ願ひ申しますから」傳吉が行つてくれりやア安心だと、二十兩の金を託してこれは少々ながら路銀でございますと餘分に金を渡しました。

東京電報

拓殖局兩部長

拓殖局總裁には桂首相自ら之れに任じ後藤遞相副總裁を兼ね滿韓及び臺灣兩部長を置く筈なり(二十一日)

拓殖局と豫算

昨年政府は遞信省に管船局及農商務省に工務局を新設し之れが豫算を第二十六議會に要求せしが當時の豫算委員會は官制改正は行政權にありと雖も其結果豫算を動かすに至つては實に立法部を以て彼等承諾の止むなきに至らしむるは不法なりと爲せしも桂首相は今後謹むべしと述べたり然るに今又た内閣に直屬する拓殖局を新設し其の官制を發表せんとするに就ては首相も大に考慮する所ありしが實の緊急已むなきを認め總に實施する運びとなし鋭意韓國移民等の非難を實績の上に打消し經費の如きは本年度追加を要する豫算を勉めて少額と爲し以て議會の批判を免れんと苦心中なり(同上)

韓海漁業會社

昨夜韓海漁業株式會社發起人會を開き佐竹安太郎桂二郎園田實德井上敬太郎等三十名出席全株引受けに決せり(同上)

義勇艦の建造

帝國海事協會の第三義勇艦建造に就き來月下旬同會に於て會議を開き三菱、川崎兩造船所に設計競爭入札を爲さしめ建造に着手する筈にて來年六月までには竣工の豫定なり(同上)

旅順開放決定

旅順開放は拓殖局官制制定の爲め延期せられしも愈來る七月一日より開港する事に決したり(同上)

普通敎科書採用

文部省は二重學年制失敗に鑑み二重學年用敎科書編纂は既定の分即ち第一第二學年用に止め三學年以上六學年の敎科書は來年度より漸次編纂を中止し普通敎科書を採用する事となれり

紐育電報

ルーズベルト氏歡迎壯觀

ルーズベルト氏は十八日紐育に着したるが百萬の市民は歡迎に熱狂し空前の壯觀なりき(二十一日)

各國軍艦集合

長沙の暴徒は更に南下して湘潭衡州地方に蔓延し來りたるもの如く目下南京に開會中なる博覽會は之が爲め市中寂寞の觀あり軍隊の警衞のみ嚴にして英佛獨米の軍艦は目下南京に碇泊し萬一を警戒しつゝあり人心恟々たり

北京電報

攝政王の激怒

皇室の近衞軍の歩兵近衞左衞は一萬七千を有するに拘らず先頃兌漢貢根泉ピストルを携へ内宮に至るも發見せられず攝政王は激怒せられ近衞軍は無用の長物なり之れを改め中より新に護衞兵を組織すべしと命ぜられ目下調査中なり(二十一日)

間島と治外法權

間島は日清國境と定まると共に夫れ丈け治外法權の問題なれば其將來はと云ふに現に同地は對清協定に係る地域にして治外法權を認め吾が國權は其地以外一歩も是を及ぼす能はず其以外に散在する韓人は清國の治下にありて之が爲めに同地は不逞韓人の巢窟として彼等に利用せられつゝあり何ともする能はず清國官憲に照して其取締を乞ふも清國官憲なれば事に當りて流石の永瀧領事も爲すに由なく經過し領事は外務省に事情を具し許りつゝあるが要するに同地を組成せる韓人を我が治下に治めざるべからず現状は寧ろ韓國人本位にして清國人の副たるの觀ある以上不十分なるのみならず之を改むるも亦急務たれば近く此問題を提げて清國と交渉する筈なりと云ふ

狹軌利用の廣軌

鐵道院は先づ內地に於ける幹線丈けに廣軌改築の必要あるも新に廣軌を敷設するは經費の許さゞる所なれば現在の狹軌線を利用して別に廣軌の使用に供するに決し京濱間複線工事の竣成を待て漸次實行する筈なり

寺内統監の來任期

確かなる筋に達したる報知によれば寺内統監は來月三日東京出發下關より軍艦に搭乘し仁川へ直行せらるゝ豫定なりと云ふ

德壽宮内の宮殿

德壽宮内新築の石造宮殿は建物全部落成し目下室内の装飾に從事中なるが同宮殿は前皇帝とブラオンの間に契約成り二百五十万圓の工事費にて引續き建築中なりしが室内裝飾七十五萬圓に上り左迄廣大なる宮殿ならざれど裝飾は東洋第一なりと稱し居れり

副統監の出發期

來る廿五日東京出發の豫定なる山縣副統監は下關より光濟號に搭乘し海路仁川に直行せらるゝ筈なり

●岡前內部次官進退

岡前內部次官か鳥取縣知事に轉任せられしを憤ほり辭表を提出せしは然もあるべき事にして同縣は初任知事の見習舞臺なれば如何に高等官一等一級の名譽を授けらるゝも之を統監府參與官の位地に比すれば左遷に相違なければなり而して鳥取縣民より見れば斯かる高級の知事を迎ふるは未曾有の事に屬し大に歡迎すべけれども氏に取りては官僚的經歷を汚がす所以なれば其決心や斷乎たるものあるべく聞く處によれば氏の此命に接したるは殆んど不意の强制にして嗟嘆久ふしたる後之を鶴原前總務長官に訴へたるに元來俠氣に富み在官當時より氏と因緣淺からざる關係あれば窮鳥懷に入るの憐を起し玆に氏を擬するに自己の肥料會社々長を讓り以て其不平を慰諭したり然れば氏の辭表提出は牢として動かすべからず近く同社々長となり官僚生活を脫するの機あるべしと云ふ

●海事會と調査事項

昨紙所報關稅局に於て開會中なる海事事務協議會の調査事項左の如し

調査事項

一、管內に於ける登錄及檢査を受くべき船舶の槪數

二、一般海員に關する需給其他の狀態

三、職員の國籍別、資格、認定數、職給率、雇者被雇者間の契約關係等

四、船舶の抵當及賃借に關する現況

●元山觀光團の來京

元山每日新聞社主催にて同地の紳士紳商二十餘名は觀察團を組織し二十日午前七時元山出發陸路京元鐵道敷設豫定線路を踏査して二十七日京城到着山縣副統監を迎へ三日間滯在の後七月一日京城出發釜山に出で二日同地出帆四日元山に歸着すべし

●商工調査事業前途

農商工部が本年度より開始せる商工調査事業は頗る適切の計畫なるが元來該事業の如きは普通一般の調査と異なり篤と其の國情に通じたる上ならざるべからず然るに農商工部今次の計畫は人選と頭腦の點のみに留意し此必要條件を閑却せる如くなれば折角得たる結果は案外杜撰のものなるべしと云ふ

●石塚參與官と兩會

永らく統監、副統監、總務長官の三大任務を双肩に負ひ大臣會議、參與官會議の事實上の統轄者たりし石塚氏も山縣副統監有吉總務長官の來任と共に此責務を免るゝ事となり別項二十一日の大臣、參與官の兩會議は即はち同氏最終の會議なりし

●東洋協會の晩餐會

東洋協會韓國支部にては本會幹事長門田正經氏の來京を機とし二十三日午後六時京城ホテルに同氏を招待晩餐會を催す由なるが會員外にても出席希望者は統監府內同支部に申込み出席(但し會費金參圓)するを得る由

●山根氏の衞生講話

仁川民役所樓上に於て來る二十三日韓廷衞生顧問山根氏の衞生講話會を催ふさるべき由は既報の通りなるが同會には衞生組員は勿論一般市民の來會を希望すべしと云ふ

●參與官會議の例會

二十一日午前十一時三十分より統監府に於て參與官會議例會あり石塚、倉富、松井、小宮の各參與官及大屋、菊地、池田の各局長列席せり

●民團合併書類送附

二十三日前東上中の三浦理事官よりの來電により京龍兩民團にては合併に關する書類全部を取纏め發送したりとされば京龍合併の實現近きにあるべし

●ケチヂー氏歡迎會

石塚參與官は今二十二日午後七時より掬翠樓に於て入京中の獨逸記者ケチヂー氏の歡迎宴を開催すべしと云ふ

●大臣會議例會開催

二十一日午後一時より統監府會議室に於て大臣會議開會したりと

●櫻井小學授業開始

新築櫻井小學校は二十五日に生徒を新校舍に移し廿七日より授業を開始すと

●忠南地方費の更正

本年度忠淸南道地方費歲入歲出追加豫算更正の件廿一日の官報にて發表さる

●平壤邦人墓地提供

日韓間の協約に基き今度平壤居留人の爲韓政府より二万坪の墓地を提供せり

●旭公園引受委員會

民團役所に於ては廿一日午後七時より旭公園引受に關する委員會開催の筈

北韓航路の近況

韓政府の命令航路中客月中に北韓航路槪況を聞くに左の如し

▲釜山雄基間　淸津羅南方面の秩序漸く整頓し隨て荷客の集散は既往の如く旺盛なるを得ずと雖も是れ畢竟常態に歸向せる結果に外ならずして必ずしも悲觀すべからず又明川以南に於ける大豆明太の輸出は價格の振はざるも殘荷の尠きとより何れも持合の姿にありて各港とも捗々敷集散を見ずして經過せり更に江原道各港は一月以降打續き沈靜の姿なりしが同月に入り各地とも相當の出廻はりありて正さに來るべき活躍の前兆ならんと一般に人氣向上せり

▲釜山元山間　當方面は漁獲物の潤澤なりしと一は又月末に於ける釜山方面の大豆相場昂騰の爲め比較的好成績を收め得たり當方面の一大產物たる干鰮は今日までの經過によれば前年に比し漁獲大に增加し且つ今後の出廻はりも活潑なるべく豫想せられ荷客の如きは倍々增加の傾向あるは洵に祝すべき現象なりとす則ち人民の分布愈々稠密に赴くと共に該方面の發達向上を促がし正さに特記の價値あり

▲西陵湖江間　該方面は漁季に入らば必ず活躍を見るべく期待せるに其時機到來せるも何等の事なく之を昨年の同期に比するに船客に於ては僅かに增加せるも貨物は反比例の現象を呈し是れ一面に於ては同航路の格別必要なきを證するものゝ如し偶々廢航の命に接したるは寧ろ時宜に適せる處置なりと

▲元山雄基間　農民は季節到來して耕作に從ひ商人は整理の時期に入り大豆明太の殘荷も極めて尠く最早相場の高下を競ふの餘力なきに到り玆當分北韓方面の產業は休養の體なり此際著しき徵候とも認むべきは荷物は增加せるも船客は減少せる事是なり則ち貨物の增加せるは移住民の增加に伴ふ日用雜貨の需要多きに因るものにして船客の減少は產業の不振と淸津羅南方面に於ける勞働者の需用既に充ちたる爲めなるが如しと

東拓と移民規則

東拓會社の移民規則は會社重役會の協議を了り目下其筋に內交涉中の由なるが新統監の赴任も近きことゆへ愈々認可を經發表するは來る九月頃なる可と

●沿岸井戸開鑿近狀

各沿岸島嶼の漁場に於ては從來韓人の使用し來りし極めて不完全なる井戸稀に存在せしのみにして其不潔不衞生的なるが爲め邦人之を飲用する時は往々種々の病魔に冒さるゝ事あり昨年の如きは通漁民中多くの脚氣患者其他の病者を出したる原因も右惡水飲用の結果と認めらるゝもの少からず斯くは將來の通漁獎勵上遺憾少なからざる爲め過般水產組合に於ては井戸開鑿豫算を計上したるが尚組合に於ても既に先般來其堀鑿に着手し荏子島は井上技手出張場所を選定したる上去る十日起工十三日竣工したり水質頗る良好にて多量湧出すと云ふ又楸子島は目下開鑿中にて近々竣工すべく蝟島も近く工事に着手する筈なりと而して其費用は一ヶ所平均百圓內外を要すと云へり

●北韓の一大利源地

北韓地方巡閲せる某憲兵の談に據れば義州を距る十六里朔州郡の金鑛は同郡十二面中の十面に亘り殊に同郡內新安洞の如きは昨秋迄は荒涼なる狐兎の巢窟なりしも今や一大部落と化し韓人約千有餘淸人二百に上り他日人にして同金鑛關係の爲め移住せるもの五十八あり毎月三百七十噸餘の金鑛石を出し之が碎粉用たる二百余の水車は晝夜堂轟の響を絕たず目下朔州郡內より其筋に提出せる金鑛採掘願は五十四件にして內八件既認可今や採掘中にあり同地金鑛豐富を傳へられしは實に昨秋以來の事にして本春に入りてより漸く今日の盛況を見るに至りしなり同方面中經營の宏大なるは朔州より一里を距つる金昌里に於ける英國金鑛會社なり尚ほ同地金鑛は總じて鑛脈淺き憾みあるも所在鑛區の豐富なるは多く其例を見ずと

●煙草耕作獎勵好況

本月七日を以て煙草獎勵官制發布以來所在財務監督局員專ら其任に當り模範耕作者たるべき人物に就き物色選定中なるが孰て當局に於ては右に就き多少の困難を覺悟せしに事實は意外にて其間に僅かの誤解ありしのみにて今や何れも其意を解し欣々として其選に當らん事を希望し居れりと

●仁川商業議員當選

仁川商業會議所議員半數改選の結果三級二級の當選者は前號にて報道せしが同日午後六時を以て締切りたる第一級當選者は左の如し(總投票數十二票)

▲八票　龍田利吉　▲六票　田中佐七郎　▲六票　青木一葉　▲五票　平山松太郎

●全南地方の新漁村

水產組合木浦支部に於ては過般來全南沿岸に於て將來の漁業根據地たるべき地所を探定中なりしが大庭支部長井上技手等出張實地檢分の上珍島蠶水の二箇所を以て將來新漁村を建設すべき地方と探定し既に地所を買收したるが今後引續き種々の設備を爲すべしと

●仁川居留民會模樣

仁川居留民會を一昨廿日開會の筈なりしも出席者僅かに奧田、今井、沖津、竹田津、市川、平山の六議員にして定數に充たざりしかば流會となり更に昨廿一日午後八時より開會仁川病院經營變更問題其の他に關し凝議せし筈なり

●明石司令官の入京

新任韓國駐劄憲兵司令官明石少將は豫報の如く二十日午後八時龍山驛着文武官二百余名の出迎を受け停車場より直ちに馬車にて入京大久保軍司令官を大觀亭に訪問し深更まで會談する處あり

●黃海道賊徒の出沒

黃海道平山分遣所上等兵一補助員四は賊徒搜索中十九日午後二時漏川を距る西南方約二里黃海道平山郡上面佛堂洞に於て賊魁韓貞万の卒ゆる約二十余名の賊徒を發見目下追擊中なりと

●慶北物產の陳列所

慶尙北道にては地方費を以て物產陳列所を新設する事に決し其の陳列館には人事廳なる建物を一千圓を投じて修繕し之れに當つる事に決定したり

●本年の烟草植付期

本年は春來珍しき旱天續にて各地共苗の發育未だ充分ならず從ふて植付も未畢の地方多かりしも最近雨量の漸く加ふるに伴ひ追々移植の運びに至れりと

●會議所の臨時總會

京城商業會議所にては二十三日午後七時より臨時總會を開きて四十二年度の決算報告をなす由なり

●若林前總監の歸期

奈良縣知事に轉任したる若林前警視總監は家族引纏め及び事務引繼の爲め一應歸韓すべく返電ありしと云ふ

●松崎博士の入京期

法學博士松崎藏之助氏は來る三十日東京出發來韓する旨東拓會社へ通知あり

●水野參事官入京期

既報水野參事官及茂泉鐵道調查役は二十四日入京天眞樓に投宿の豫定なりと

▲時局と商況

近く二三大官の異動ありし以來一般日人官吏は何れも身上を氣遣ひ是か爲め商家唯一の得意たる役人側の購買力は著しく減退せるに尚は統監交迭に伴ふ時局を豫想せる韓人側の警戒等にて京龍間商家の不景氣は層一層悲境を訴へ居れりと云ふ

●鈴木社長の入京

愛國生命保險會社社長鈴木万次郎氏は同社京城支店長監事淸水銀藏氏を隨へ二十日午後八時十分南大門驛着入京天眞樓に投宿せり氏は來月十日頃まで滯在すべし

●渡邊技師の出張

財源調査局渡邊技師は二十二日視察の爲め廣梁灣鹽田に出張往復一週間の豫定なりと云ふ

●窪田檢事の歸任

入京中の同木浦區裁判所檢事は二十日出發歸任したり

●安藤事務官歸任

出張中の法典調査局事務官安藤靜氏は廿日歸任せり

●川口事務官入京

大分縣內務部長川口彥治氏は廿一日視察の爲め入京す

慶尙北道の現況

慶尙北道最近の調査に據れば總戶數韓三二八、七七六人口一、五二三、九二五他日人戶數二、五八四人口八、三八三米人六戶廿六人佛人一戶一人淸人廿六人(無官)合計三三一、三九二戶一、五三三、四一九八內農業者二九三、八三四戶一、二〇九、九四七人穀物產額米九六、六四〇町收穫九二五、九七七石麥五〇、〇五〇町同七三六、七〇六石大豆二六、四四五町同一八七、二四六石粟八、九三五町七、〇四一石綿花六、一三六町同三三八、〇一二石大麻八五八町同八一、二七四貫煙草七一二町同一八四、〇八八貫在一九五町同一、九五二石貯金には銀行預金二、六四五、九五二圓支出九八八、五二三圓郵便同一四九、六九七圓支一一四、八九七圓實業補助會社は政府補助一千圓の南韓製造會社同六百圓の製織業大邱實業傳習所工事には織物三一〇、二八四疋莞席四四、九四〇枚製紙二四七、四九六束陶器二八、五一四圓養蠶には桑園四、四九九反蠶業傳習所五等にして金融組合は十所郵便引受は一、九九七、七六四配達二、二〇五、八九七小包二、二九四〇內韓八四、二〇〇同配達四一、一六七內韓四、六三二電信發四四、四四七着四七、二六二件等なりと

▲治外法權▼

曾禰前統監の病狀益惡敷醫者の診斷に因れば此秋まではは到底モツまいとの事だ、去年日の出町の小學校に開かれた民團の歡迎會に臨み、皆さん健康を維持せなけりやいけませんよと演說した彼がアノ時から一年たつかたゝぬ今日不攝生の爲に倒れる樣になつたのは氣の毒な事ではあるが、同時に我々にとつては恐るべからざる敎訓である▲今だから云ふが曾禰西湖とて萬更の馬鹿ではない、其馬鹿でない西湖がナゼ此頃の樣な耻多き末路を見るに至つたかと云ふに其本は健康を失して無餘儀も曠職の罪を犯したからである、過淫、暴食、暴飮、夜フカシ此四ツの責道具に因つて曾禰は自分を責め付けたのである、誰の健康だつてローデ責め付けられて堪まるものか▲此頃の東京は殆んど年中一人か二人かの國賓を有して居る、先立ては海軍視察の支那の皇族が來て居た、其次には印度の王樣が來た、其王樣がたつと續て別の王樣がやつて來た、スルト亦續て獨逸聯邦王國の攝政がやつて來た▲モハヤ今日の東京は昔日の東京に非ず、モハヤ今日の日本は昔日の日本に非ざることは斯く王樣と名の附く連中が續々觀察にやつて來るのでも判るドーカ今後も今日迄の速力で我國力を進めていつて他日は東京を世界の都にしたい▲吉長線の土工が落成した、アトは鐵軌を敷設する許りだ、ナンダか滿洲に於ける我勢力の基礎が堅くなるように思はれて嬉しい、同線が段々間島から會寧の方へ延びるのも遠くはあるまい、マヅ何事も夫迄夫迄▲朝鮮日々釜山支局の主任今岡にナゼ退韓を命じたのか、釜山理事官は理由を公表するが良い、苟も事は公明に決すべしだ官權を濫用したとすれば龜山も無事では濟まぬ。

山と川間の秘め事

▽忍ぶ戀電車の棧

疲れて通へば千里も一里と云へば此の割合で計算すれば京城龍山間位ひには足らぬ程で、惚れて逢へば一間半二間に足らぬ程でござる、に人力車も電車もあれば汽車もあり然れば偶に會ずに歸る事ありとも左樣に苦にはならぬのみか今では電話と云ふものあれば素股を食つて引き歸さにやならぬ不粹なことはなし此れと云ふも偏へにれ金のれ陰なり尊いものはれ金なり貯めべきものはれ金なり貸したら利足を取るものなりと雖はれ待合辰紋の女將れ紋を龍山に圍つて以來シミ〲厭すつた古城君

鎌びれ金の御威光で盛んに文明の利器を應用して通つて御座つたがれ紋の精力は旦那計りぢや洩らし切れず壯俳尾崎茂に餘力計りなら我慢もなるが遂には全力と云ふ奴を傾注したること古城君の知る所となりしも流石後には民長とも成る可き器量人なれば何んにも言はずスッパリと呉れて行つたので本來ならばれ紋は申譯けの爲めに髮でも切るべき筈を反對に尾崎と宿のれ前さんとなしたるに古城君落膽の結果は浮世を悲觀し彼の分で若し病つきでもしたらモウ老る年波には勝てず若しもの事があつてはと思はれ近親の者は必配し慾張つた奴は紀念分に就て苦勞して居た程であつたが民長と云ふ戀女房を見付けてから急に精力を恢復せられたので近親の者は安心し慾張連は何んだ詰らないと落膽したり扨も其の後然る程に民長殿精力が恢復して見ると不量見を起し相にない妾が欲しくなり考へた末が郷里大分での昔し馴染石川縣金澤市は中町生れの宮村とよ(四〇)と云ふを夫人にさへ秘密に呼び寄せたのが四十三年の二月であつた、がれ紋の不檢束に懲りた古城君羹に懲りた頓馬が膾を吹くの格で其保管方を山と川との間にある料理店龍山の八景園に托したるが感心なるはれとよにて遊んで居ては濟みませんと自ら進んで藝妓稼ぎの名も其儘豊こと名乘りて明るい座敷ばかり撰つて勤めて居るとかや然れば此の頃古城さん京龍合併を口實に電車を戀の棧と八景園にれ忍びの浴衣姿にビールの滿を引き醉ふてはれ疊の膝枕簾垂を越して吹き入るゝ涼風に醉顏を弄らせて京龍合併後の大市長としての抱負を虹の如く吐くのなりとは罪が無くつて結構なり山と川とに狹まつた秘密と云ふのは此の事さ

壯俳の袋叩き

▽大望は起さぬものぞ

如何な事情があるにしても他人を袋叩きにすると云ふは惡い事ながら撲られる如な種を蒔いたのは更らに惡い茲に京城座出勤の壯俳に金崎と云ふ人に知られねばならぬ稼業で居て夫れでチッカラ人に知られない男子守か乳母の尻でも附け覗つて居れは間違ゐもないものを分不相應の大望を起し南大門外御成町の鳴戸の抱へ前借百二十圓もある酌婦ト一事てる(二五)が俳優と云ふ所へ打ち込んだのを幸ひど教唆し中澤、吉井、上田なんぞの連中を語らひ或る所へ引つ張り出して隱匿ひたりとかに樓主の末益は火の如くなり廿日午前三時頃金崎を引つ張り出し問ひ糺したるも實を吐かざるより擲り附けたるに彌次馬が寄つてたかつて袋叩きにしたので目下唸つて寢て居るとは悪いながらも氣の毒なり

大相撲彙報

▽素晴らしき好人氣

▲大した落札 過日場内飲食物の賣店受負入札ありしに八百五圓五十錢にて落札せり之が又觀客の頭の上に落つるのかと思へば何んだか物騷な樣也

▲ビール競爭 茲に又ビールの競爭が始まり日本ビールは早くも千何本のビールに幾百金を添へて贈りければキリンビールの明治屋は遂に手を退き其の代りに明治屋は場所の入口に緑門を構へ音樂隊を繰出し尙ほ賑かなる廣告方法を考案中なりと

▲一行の乘込 釜山は二十一、二兩日の豫定なりしが非常の好景氣なれば一日延期するやもはかられず秘園上覽相撲其他是等打合せの爲め秋田氏は一昨夜釜山に向ひしが二十二日千秋樂となれば同夜釜山を發し二十三日朝京城着もし又延期となれば二十四日朝京城に入り其足にて秘園に到り上覽相撲を擧行すべしと云ふ

▲協會の苦心 人氣力士の小常陸が右足の負傷今なほ全治せざるため渡韓せざる代りに協會は苦心の末北陸行の關脇朝汐を此方に廻はすことゝなりたるが兩者の優劣如何は別として今回の興行に協會が如何に苦心せるかを知るべし因に小常陸の負傷は日ならずして全快する由なるが同力士は昨年より渡韓を切望したる一人なれども全癒後は北陸組に入る筈なりと

女振り

寶六庵主 荒谷かつ女

斷る迄も御座るまいが仲には知らない方も御座らうから冗な樣だが書くので御座る、寶六庵と申しても尼寺では御座らぬ新町裏東四軒町の料理屋で御座る、寶六庵なる名稱の緣起をたづぬるに人皇百二十一代の御宇とかよ京城掬翠樓の仲居にホウロクと醜名を呼ばるゝ女あり何うして左樣仇名を呼ばれたるかは少々憚る所あればれ與りさして夫れが一念發起してホウロクの醜名を寶六とモヂつて前記の所に庵を結び色餓鬼濟度に從事する如になりたるは一昨年中の事にて開庵式の當日には時の副統監荒助大八大官連に圍繞せられ親臨せられたるさへあるに自ら筆を揮つて寶六庵の扁額をものして賜はりたり斯る由緒正しき庵なれば信仰歸依の蓮引きも切らず繁昌一方ならずとかや、住職……ぢやない庵主れかつ女は尾の道市は十四日町の平民戸主豊次郎の姉にして本姓は荒谷と云ひ帳場を預る仲僧……ぢやない番頭の田中幸三郎は京都生れ今年三十になるのが掬翠樓以來の俗緣の御亭でれかつさんよりは九歳の年下、女振り子年下の亭主を持つて試ないから八リキリとに斷言も致し兼ねるが大層可愛いものだとか、ソウ聞いて見ると人間の淺間しさ少々妬けざるを得ない、夫れは先づ夫れとしてれかつさん平民のれ客はキツイた嫌ひだとの噂もあるが實は左樣云ふ譯ではないのです振られた平民の惡口なのさと決して氣に掛けない所が豪い、嗜好なものは若い男。

小結 碇潟と土州山

▽ヒリゝと辛い小粒同志

碇潟卯三郎の本番附は前頭筆頭である生れは大坂西成郡で當年三十二歳身長五尺四寸體量二十四貫力士としては小粒の方である、彼れは元京都力士であつたが去る三十四年五月上京して出羽海部屋に入り親しく常陸山の訓陶を受けたのである、性質は頗る吞氣で非常に愛嬌に富んで居るので常陸も一層彼れを可愛かり大に眼を掛けてやつたので技倆も忽ちにして發達し遂々今日となつた、得意は叩込みとカッ彈きで、此叩込みには曾て國見山も掛かり又太刀山の如きも足取りにかゝつて倒れた事がある、彼れは實に大力士を喰ふ敏捷な力士である、昨年の五月場所は彼れの全盛期で朝嵐と小結を爭つて遂に彼に讓り本年一月の成績に依つて其後を襲ふ筈であつたが不幸にして一月は一つ負越した、併し前の條件があつた爲め依然筆頭に止まつたが去る五月場所は病氣の爲め休場したから今度は四五枚下るであらふ、彼は或は三役に入る時期再び來らざるやも知れざれど前頭の二三枚目に置けば慥かに面白い働きをするであらう、彼れは矢張り東方の名物男である。

▲土州山紋太郎年は僅かに二十三歲初土俵は三十九年の一月で力士となつて四年振りの本年一月に入幕しハヤ前頭の二枚目迄昇進したと云ふ怪物恐らく力士として此位ひ早く出世した者はあるまい、それで身長は五尺四寸、体量は僅かに二十貫幕内第一の小粒である又力量があると云ふでもない彼れは土佐の生れで板垣伯の推薦により友綱の部屋に入り國見山を師匠として同關及び太刀山に就て只管技倆を磨いた、尤も彼れの生命は敏捷にある、得意の二本を差し砂を蹴立てゝ寄つて行くと如何なる大力士でもタジログのである、五月場所の成績は地位負けがしたものか負越しとなつて居るが大敵朝汐を倒して居るから次の番附も多くは下るまい、小粒で非力ではあるが年は若し稽古は熱心なりと云へば、まだ〱昇進は出來る勉強次第で師匠國見山の後襲ぎになれぬとも限らぬ。

●仁川雜事 仁川に於ける目下の自動電話數は四箇所にして即ち仁川杻峴の兩驛並に稅關波止場、郵便局前なるが今回宮町三丁目公園下に增設せらるべしといふ▲仁川龍洞柳奥奉方にて嚴巳煥、許白石の三名車座となり一昨日の午後十二時頃例の賭博に耽り居たるを警官踏込みて引捕へ本署に引致して取調中なるが型の如くれ尻をば叩かるゝ事なるべし▲仁川花開洞通りの蝎甫に對しては定期檢黴を施し居れるも內洞及び龍洞に居住せる妓生に對しては定期に之れを行はざりしが一昨日其筋より警官醫師出張健康診斷を行ひたる結果廿二名中感冒患者二名ありしのみにて他は異狀なかりしと

●貧が爲せた惡事 咸興南道咸鏡郡上朝陽面中坪里當時中部避馬洞五十一統二戸朱陽箕は昨年七月南部五壯洞百五十四統一戸表相浚が下宿屋業なるより止宿中我が貧困の爲め屋賃支拂を怠り爲めに家主より退去を迫られ居るに同情し自己所有の雜品を入質し金を貸與したる事前後二回然るに九月より虎列剌の流行盛んになるより避けん爲め一應歸省する事になり計算せしに十七圓余表相浚より支拂ふ事になりしも出來ざるより其の儘に爲し尙ほ諸道具も預け置きしに表は貧困の余り預りの物品も入質費消せしにぞ朱陽箕は表相浚相手に筆洞分遣所に告訴せりと

●張つた網に罹る 忠淸北道淸州邑井上材木商店雇人木挽職藤原某は主人井上より借金して同所料理店越中屋抱酌婦立井とく(十九)を七十圓にて身受け內緣を結び同棲中とくは淫賣上りの事とて藤原が嫌氣になり二十日午前十時家人の隙を窺ひ逃走し下女奉公稼ぎの目的にて南大門驛に着したるを西部署に於ては井上よりの賴電に依り之を取押へ保護中なりと

●抱へ主の捜索願 京都府平民宮城てる(二五)は御成町料理店末岡益吉方に前借金百二十五圓にて抱へられ淫賣稼中の所二十日午前十時頃無斷家出行衞不明に付其筋に捜査願出せりと因に同人には內緣の夫ありしに大運にて役者に從業中なれは或は同所に潛伏し居るならんと別項壯俳の袋叩きの項(照參は振つたり)

●桑原商店の大賣出 本町一丁目桑原商店にては夏物嶄新の新柄山の如く着荷したれば二十二日より向ふ七日間割引大賣出しを爲す由なるが猶モスは一尺十八錢より種々取揃へありと云ふ

常陸山の幼年時代(下)

▽遠山天一銀行支配人談

▲柔道の初段位は十分やるが、殊に水練は頗る上達したもので水府流水術の達人たる資格は確である、二十年の夏那珂川(水戸市の横を流るゝ河)に大洪水が有つた、大抵水泳の達者の者でも洪水の時丈は危險の爲に遊泳を見合はす慣例なるに、彼は平然逆まく濁浪の中に飛入り激流に押流されながら、約四五町許りを泳いで對岸の青柳村に這ひ上り、村の百姓どもが、大切にする西瓜の畠にもぐり込み、たらふく西瓜を喰ひあらした上に、目ぼしき大西瓜を小腋に抱へながら再びゆふ〱と濁浪を泳ぎ切りて戻りつき、持參の西瓜を割つて一同に振舞つた水泳の達者さには居列ぶ朋輩の舌を捲かせた、相撲に成らなくつても水泳術で確に世を渡ることも出來たらふと思ふ。

▲その後余は彼に先立ちて中學校へ入つたから毎日顏を合はす事はなく成つたが、小學校時代彼と同級生にて懇意の人々は余の外に法學士西野元(大藏省書記官)法學士戸村義祖(住友銀行橫濱支店次席)農學博士鈴木重禮(農科大學助敎授)砲兵少佐小室靜、畫家永井鳳仙、米國連合通信主任記者山崎梅處などがある、今京城宮內府の警察部とかに居る大內貫澄君は五六歲頃からの竹馬の友だから一層詳しく知つてる筈だ度支部の技師で平壤の農工銀行に居る掛札年藏氏の夫人は常陸山の實妹だが體も人並で立派な人格の人である、その外一人の弟は陸軍に奉職して居るが此れも餘り大くない。

▲常陸山の近親で爾澤門下の秀才と呼ばれ、二十七歲にして水戸より第一期の代議士に撰ばれ大坂毎日新聞の社長をした故渡邊治氏などは彼が相撲になることを嫌つたやうに聞いて居るが、我々も谷公(幼名)が相撲に成つたと聞いた時は武門の名を傷つけるとか何とか反對をしたのみならず、最初の頃御西山と稱して西の海劔山一行のふんどし擔ぎにて郷里に來た時には、友人抔は彼の體格が他の小相撲よりもやせてヒヨロ〱して居るを見て、將來とても幕の內へ入る望はないから斷然相撲はやめろと忠告した事がある(れはり)

◎時事俳評 千春

△有吉長官の多辯
雷の調子に乘れば落ちるべし

△御用紙の不謹愼
辨當の長もちならぬ暑さかな

△京龍合併の發表
花嫁の嬉しゆう釣るや初蚊帳

△大相撲の前景氣
音高き櫓太鼓や五月晴れ

△女敎員の有夫姦
だらしなき引かけ帶や派手浴衣

目と耳

▲壽座 東京初下り三遊亭金馬一座は既報の如く愈々二十二日を以て初日を出したるが其の番組は左の如し 落語手踊(三遊亭金平)ゆび藝(同遊齋)常盤津浮世節(岸の家小つま)落語音曲いろ〱(三遊亭市馬)落語物まね(同金勝)落語手踊(同金登喜)落語すてゝこ(同花圓遊)內外曲藝いろ〱(丸井龜次郎)尺八一曲(一睡軒花堂)東京高等人情落語(三遊亭金馬)ハイカラ喜劇(一座總出)

▲龍山座 三日目廿二日替り狂言は「幡隨院長兵衞」にして役割左の如し 白藤金五郎、櫻川五郎藏(鯉之助)幡隨院長兵衞(壽江治)五郎藏の母親(壽紅)唐犬權平(三吾藏)長兵衞女房(鶴三郎)水野十郎左衞門(小六)倉橋勘太夫(玉藏)寺西閑心齋(團九郎)でっち消兵衞(鯉昇)茶亭(祭尾丸)

▲滿洲觀戰鐵道 東京、京都、大坂等の大都に於て興行し各宮殿下の臺覽を忝うしたる六車初次郎氏主宰のキチオラマ式觀戰鐵道は釜山打揚後廿五六日頃當地に乘込む都合なり

今日の運勢

六月廿二日舊五月十五日 ●一白 先勝 戊午 建 夏至 △一白 新事旅行を忌み盜難遺失防ぐべし其他業務上不如意不振の事多し△二黑 爭論利慾衝突間違起り易し相談依托貸借見込なし△三碧 談判旅行中裁に吉工藝業には好望なるも商業には利益を逸する事あり△四綠 散財多き日なり其他吉△五黄 新事見合せの事紛爭遺失防ぐべし△六白 收利ある日貸買貸借進んで吉爭訟葛藤の端を起す勿れ△七赤 會心の日 大抵吉使用人の事注意すべし△八白 物事澁滯し易し尙盜害遺失防ぐべし△九紫 新事旅行見合せの事妄言要求に遭ふあり(本町五丁目三一館判)